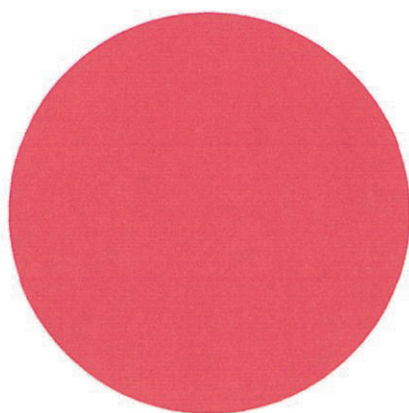


1970・半世紀前の COOL JAPAN 展



意図

70年代、と聞いてあなたは何を想像するだろうか？
終焉を迎えたベトナム戦争や文化大革命、赤軍の暴走やオイルショックなど、混乱したイメージを想像する人も少なくないはずだ。第二次世界大戦の余波が終わりを見せ、環境問題やアップルコンピューターの登場、冷戦など、ひとつの時代が終わり、現代へと続く新たな扉を開けた時代でもある。

そんな70年代の日本の「芸術」というと遠い昔の話のように感じる人もいるかもしれないし、想像がつかない人もいるだろう。しかし、2020年の東京オリンピックを境に「また」新たな時代の扉を開けようとしている今。少し立ち止まって、我々の歩んできた道のりを再考する必要があるのではないだろうか。

70年代は、様々なジャンルのアーティストが交流しながら、芸術を根源から問い直そうとした時代だ。本企画はその多様な芸術活動を取り上げ、振り返るとともに、その実験精神が現代芸術にどのように更新されているのかを探る試みである。

この時代に切り開かれた芸術への問いは今なお意味を持ち続けている。本企画では、1970年から50年の節目を迎える2020年を開催予定としている。2020年は東京で2度目のオリンピックの年だ。多くの観光客や世代を超えた人々が東京を中心に熱狂の渦に巻き込まれることだろう。私は、そうした節目の年にあえて70年代の芸術・文化活動にスポットを当てることで、70年代という時代の雰囲気や現代と照らし合わせることを目的としている。来場者が身をもって体験することによって、芸術と時代の関係性や芸術のもつ大きな力を感じてほしいと考える。

内容

○場所 一都内の美術館

博物館法によると、美術館とは教育施設であると明記されている。しかし昨今では、その集客力や話題性から、美術館とは、単なる教育施設ではなく、町おこし・地域活性化の一部としての在り方が考え直されている。トリエンナーレやビエンナーレなど国際展の広まりがその一例である。国内で開催される数々の国際展では、多くの来場者が見込めると同時に開催した地域の活性化も見込めるため、多くの付随したイベントが行われることもある。今回の展覧会では開催場所のメリットを生かして、美術館をただ単に展示する場所として利用するのではなく、より大きな存在になるように目指して取り組む。

○期間 一2020年6月1日～8月1日

○開館時間 一9:30～17:00

○構成 一本企画は3部構成+特別イベントよりなっている。

第1部：70年代という時代

第1部では70年代に、どのような社会背景の中で、こういった芸術ムーブメントや流行があったのかを解説する。

会場に入るとまず、70年代の東京の上空写真が壁一面に貼ってある。両脇の壁には、洋楽・邦楽問わずレコードが一面に貼ってある。来場者に70年代の空気感を想像してもらおう。また、会場内には70年代のヒットソングが流れており、来場者は時代の変化を無意識のうちに読み取ることができる。

① 下図・1975年当時の東京上空航空写真（一部）



②時代解説

1965年～79年まで、日本・海外での象徴的な出来事の解説とその新聞記事の展示。当時の流行や芸術についても解説する。

③漫画・雑誌

当時、人気の全盛期だった「ガロ」などの漫画雑誌の原本を展示する。また、「宝島」や「ポパイ」「ビックリハウス」といった雑誌も同様に展示し、そのコピーを来場者が読めるようにする。

④テレビ

70年代の一般家庭の部屋を再現した場所でブラウン管テレビを通して当時放送していたテレビ番組「ステージ101」や「スター誕生」を見ることができる。

第2部：70年代のアーティストたち

第2部では70年代に活躍したサブカルチャー、アーティストにフィーチャーし、その活動に迫る。第2部会場の入り口には当時の若者文化の中心地でもあった新宿の様子をプロジェクションマッピングする。

①寺山修二と天井棧敷

寺山修二を切り口に70年代を読み解いていく。天井棧敷の活動の展示（ポスターや活動写真の展示など）や当時の映像の上映も行う。天井棧敷メンバーの四谷シモンの人形の展示も行う。

また、「アングラ」や「ポストモダン」といった、現在では耳にすることがなくなった言葉の解説もおこなう。



左図・寺山修二



右図・四谷シモン「ルネ・マグリットの男」

② 暗黒舞踏

土方巽・大野一雄を中心に暗黒舞踏の活動を紐解く。思想の解説や、当時の舞踏の映像・海外での評価、澁澤龍彦や三島由紀夫らによるコメントの展示。

下図・大野一雄



③映画上映

70年代をよく切り取っていると思われる映像の上映。
70年代は前衛芸術の全盛の時代でもあるが、ハリウッド映画が人気を取り戻した、映画全盛の時代でもある。芸術面に重きを置いた映画と商業系映画の両方を上映し、来場者に比較してもらえるようにする。上映前には映画や社会背景を解説した資料を配布する。

(実験映画・参考)

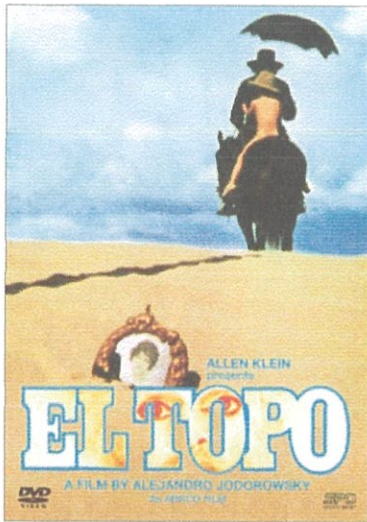


左・『書を捨てよ、町へ出よう』(1971)

監督・寺山修二

右・『薔薇の葬列』(1969)

監督・松本俊夫



青春の殺人者

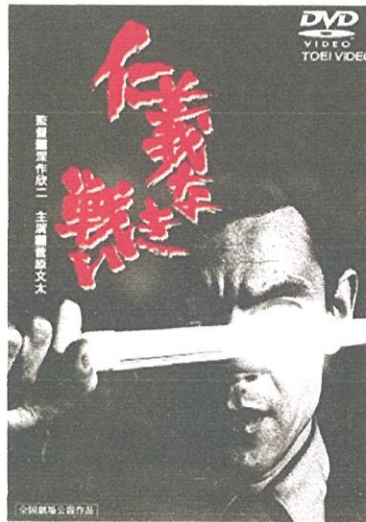
THE YOUTH KILLER



左・『エル・トポ』(1970)
監督・A.ホドロフスキー

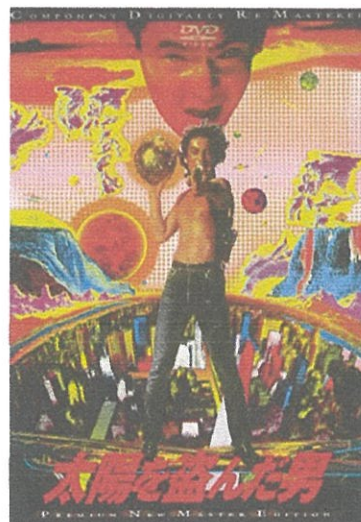
右・『青春の殺人者』(1976)
監督・長谷川和彦

(商業系映画・参考)



・『ある愛の詩』(1970)
監督・アーサー・ヒラー

・『仁義なき戦い』(1973)
監督・深作欣二



左・『タクシードライバー』
(1976)
監督・M.スコセッシ

右・『太陽を盗んだ男』(1979)
監督・長谷川和彦

第3部：現在に生きる70年代

第3部では視点を現代に戻す。70年代が現在ではどのように描かれているか、また現在にどのような影響を及ぼしているかを展示する。

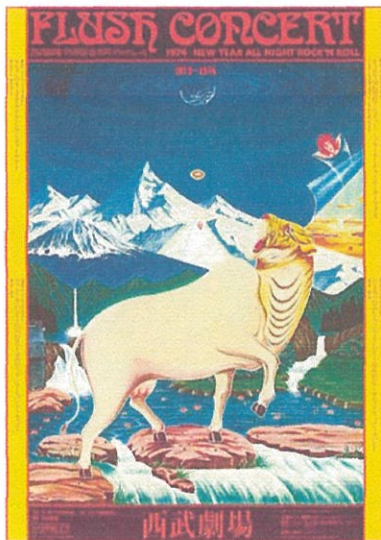
①時代解説

70年代に起こったムーブメントや流行が現在に至るまで、その後どのように変遷していったのかを解説する。

②作品展示

日本において70年代から活躍する前衛芸術家と、現代の前衛芸術家らによる作品展示を行い、それぞれの解説を行う。

(70年代から活躍する芸術家・参考)

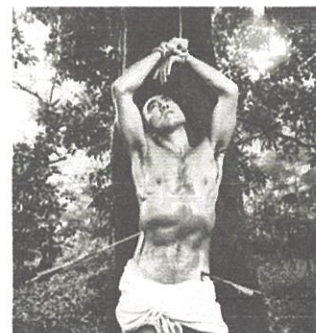


左・横尾忠則
「FLUSH CONCERT」

右・金子国義
「SWAN オデット」

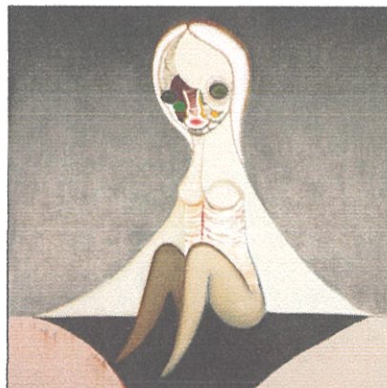


左・荒木経惟「わが愛・陽子」



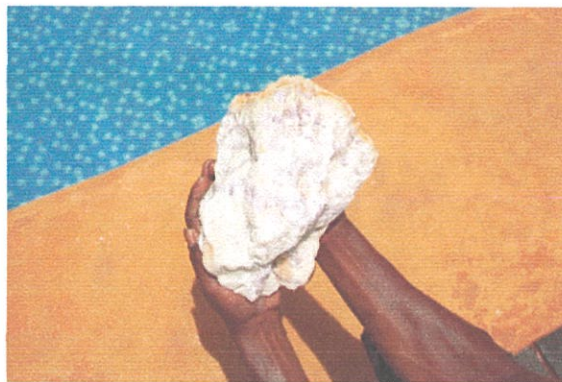
右・篠山紀信「三島由紀夫」

(現代芸術家・参考)



左・櫻井りえこ「輪越」

右・加藤泉
「Untitled 2015」



左・石川竜一「okinawan portraits 2012-2016」

右・田村友一郎「マダガスカルの石 / Stone of Madagascar」



Mr. 「High School Story-Satsuki-tan & Miyabi-kyun: Favorite」

特別イベント

期間中には、本展と連動した特別イベントを行う

①DJ イベント

国内外で活躍する DJ を呼び、70 年代の曲を中心にダンスイベントを行う。

イベントは美術館閉館後の 18:00~20:00 まで行い、飲食（飲酒含む）可とし、成人のみの参加とする。

②トークショー

現在も第一線で活躍するアーティストにより、「自分にとっての 70 年代」について対談形式でトークショーを行う。

③ライブイベント

70 年代にも活躍していたミュージシャン、また 70 年代の音楽に強く影響を受けたミュージシャンによるライブイベントを行う。（屋外）

企画構成の説明は以上となる。

安保闘争や公民権運動、高度経済成長期の後に訪れた 1970 年という時代。60 年代というきらびやかな時代に隠れがちだが、常に新しい芸術や文化を求める若者たちの姿がそこにはあった。

国内外でポピュリズムが台頭し、リベラル勢力が衰えを見せる現代社会の中、70 年代の文化や芸術は、「人々が主張していくことで社会を動かす」という民主主義の根本でもある大切なことを我々に教えてくれる。

当時の文化や芸術を振り返り、現在の生活に立ち返ったとき、先人たちの大きな力をどこかで感じながら日々を過ごすことができるのではないだろうか。

使用画像

<http://user.numazu-ct.ac.jp/~tsato/webmap/map/gmap.html?data=history>

<https://www.japantimes.co.jp/culture/2013/09/04/arts/shuji-terayamas-underground-public-stage/#.Wec60dW0Opo>

<http://bigakukenkyujo.jp/blog-category-10.html>

<https://subscene.com/subtitles/throw-away-your-books-rally-in-the-streets/english/1389924>

<http://nikkidoku.exblog.jp/9831923/>

<https://images-na.ssl-images-amazon.com/images/I/51F1BB9WGML.jpg>

<https://images-na.ssl-images-amazon.com/images/I/81kzEj4-zBL.SL1500.jpg>

<http://static.techinsight.jp/love-story.jpg>

<https://ciatr.jp/topics/271750>

<http://eiga.com/movie/46526/photo/>

<https://images-na.ssl-images-amazon.com/images/I/81KEmtDXQAL.SL1451.jpg>

<http://www.ytmoca.jp/collection/img/poster/02.jpg>

[https://s-media-cache-](https://s-media-cache-ak0.pinning.com/originals/ed/55/51/ed5551cf0d0aa2043d241fccd947b981.jpg)

<ak0.pinning.com/originals/ed/55/51/ed5551cf0d0aa2043d241fccd947b981.jpg>

<https://cdn.bijutsutecho.com/wp-content/uploads/2017/06/23134103/03-900x588.jpg>

<http://openers.jp/wp-content/uploads/2012/07/317326/02.jpg>

<http://www.tokyoartbeat.com/media/event/2016/A2F3-620>

http://payload420.cargocollective.com/1/9/319203/10719415/MG_4643t-ss_701.jpg

https://bulan.co/swings/wp-content/uploads/2016/09/2016artium_ishikawa01_780-1.jpg

<http://yukatsuruno.com/images/pressrelease/YT2017.jpg>

<http://www.scmp.com/sites/default/files/styles/980w/public/2013/09/27/46f672990763816a46e96e243c2f7e98.jpg?itok=IV25kVtw>